

（ 菜の花を植えて、バイオ燃料で車が大和路を走る ）

3月4日、「菜の花・バイオマスプロジェクト 奈良」（議長：岩本廣美奈良教育大学教授）は、家庭から出る使用済み食用油を回収し、ディーゼルエンジンの燃料に使うリサイクル運動を平成20年度から奈良県全体で始めると発表した。同議長は「地域資源の循環を目指し地球温暖化解決の一步としたい。多くの県民が関心を持って運動にかかわってほしい」と呼びかけた。使用済み食用油のリサイクルは既に全国40都道府県で実施されていて、奈良県では32番目に始まった。

菜の花・バイオマスプロジェクトの概要

1. 遊休農地に菜の花を栽培し、農村景観を美しくする。
2. ナタネ油を生産し、食用に利用。
3. 使用済み食用油の回収、バイオディーゼルの精製。
4. ディーゼル車・農耕車を走らせる。
5. バイオ燃料は、軽油に比べ、CO₂の排出量が少なく地球温暖化防止に貢献できる。
6. せっけんやローソクなどへの再利用も進める。

使用済み食用油（以下廃食油と記述）の再利用を図るため、県内に回収ステーションを新聞販売店、スーパーなどに30か所設置（今年度内50か所に増設予定）。回収された廃食油は、天理市松垣町の社会福祉法人自然塾に集めて精製する。

バイオ燃料の購入については下記に相談が必要

社会福祉法人自然塾 TEL：0743-67-3355
 菜の花・バイオマスプロジェクト奈良
 （事務局：NPO 法人奈良ネイチャーネット）
 TEL：0744-52-3661

菜の花・バイオマスプロジェクトのはじまり

ドイツでは1970年代に世界を襲った石油危機を教訓として、化石エネルギーに頼らない燃料化計画を強力に進めていた。資源作物としてのナタネに注目し食料としてではなく、エネルギーを生み出すためにナタネ栽培を始めていた。

日本では環境運動に熱心な滋賀県で、平成10年からドイツの動きに触発され、菜の花プロジェクトが始まり、全国にこの運動が広がっている。

市民主導で行われている取組みが、今後どのように奈良県で発展していくかを注目していきたい。

（上田）



バイオ燃料普及の為に菜の花を栽培



使用済み食用油の回収ステーション

これからの主な催し

〔主な行事〕

● 4月18日（金）午前10時30分

大神神社 鎮花祭（はなしずめまつり）

「のどかなる春のまつりの花しづめ風をさまざまにとほ祈るらし」（新拾遺和歌集）の古歌で有名なこのお祭りは、本社と摂社狭井神社の両社で行われる。「大宝令」（701年）には、国家の大祭として毎年行うように定められ、国民

の無病息災を祈願したことが記されており、このお祭りは別名「くすりまつり」とも言われている。

場所：桜井市三輪

交通：JR桜井線 三輪駅下車 徒歩7分

問い合わせ先：大神神社

TEL：0744-42-6633